

「考え、話し合い、学び合う学習」の要素について

○「考え、話し合い、学び合う学習」の要点

学びの具体像（イメージ）

社会科の例

<p>自分や集団の考えを発展させ、共に実践に参加すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初の個人的な考えが、相互の関わり合いを通して、再構築され、納得されながら広がり、次第に質の高い全体の考えに仕立てあがっていく。このようにして、納得が共有されると、一気に実践に向かうようになる。 【提案したり、実践したりすることができる】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移転するならどこがよいかを提案できる
<p>他者と相互に関わること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び合う授業での子供は、多くの他者と関わる。お互いの考えに耳を傾け合い、考えを確かめ合って探究している。こうした学びでは、思考がよく可視化されている。→「考え、話し合い、学び合う学習」では、思考ツールを活用 【説明ができたり、知識をもとにやってみたりすることができる。考えたことを言葉にして伝え合うことができる】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜそこにあるかを説明できる
<p>自己との対話を重ねること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や自分の考えをもち、自分で自分自身を見つめたり見つめ直したりする。また、他者と関わることによって、自分で自分自身や自分の考えを吟味し、確信したり再構築したりする。すなわち、自分がもう一人の自分と対話する。 ・ 自分自身の学びの深化や自分自身の成長を実感すること。 【知っていたり、やってみたりすることができる。知っている自分、知らなかった自分、知ろうとしている自分などを感じる】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県庁所在地の名称と位置を調べられる